



糖尿病と上手にお付き合いするために

糖尿病の神経障害

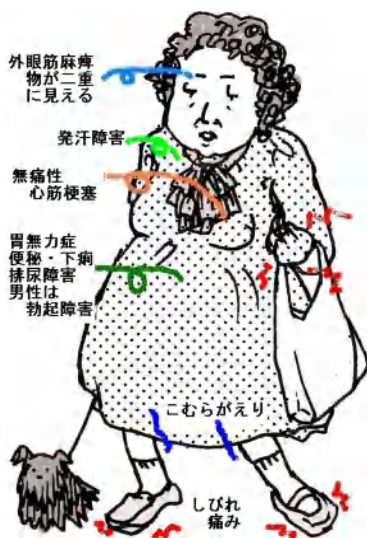
糖尿病の3大合併症といえば、網膜症、腎症、そして神経障害です。

1. 神経の種類は？

私たちの体に張り巡らされている神経には大きく分けて末梢(まっしょう)神経と自律神経があります。末梢神経には、温度、痛み、触感を感じる感覚神経と体を動かすための運動神経があります。また、自律神経は心臓や胃腸など内臓の動きや、血圧や体温を調整します。糖尿病ではこれらの神経に障害が起こります。

2. 末梢神経の障害

最初に足のしびれが現れます。両方の足の裏から始まり、次第に上へ広がります。足の裏に何か張り付いたような感じがしたり、坐骨神経痛などの神経痛もおこります。また、こむらえりも起こりやすくなります。



進行すると、感覚がなくなって温度や痛みを感じなくなり、足に壊疽(えそ)ができる原因となります。

3. 自律神経の障害

糖尿病では、内蔵機能を調節する自律神経も障害を受けます。よく見られる症状として、血圧の調整がうまくいかないための起立性低血圧、発汗異常、便秘や下痢、胃のもたれなどの消化器症状、排尿障害、男性では勃起障害も起こります。また、低血糖が起こっても動悸や発汗、ふるえなどの症状が起こりにくく、自覚されない無自覚性低血糖となります。

4. 神経障害の検査

末梢神経伝導速度、タッチテスト、アキレス腱反射検査や振動覚検査があります。自律神経の検査では起立試験や心電図を利用した呼吸心拍変動係数検査などがあります。



5. 神経障害を防ぐには

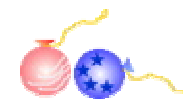
血糖のコントロールが大切な事は言うまでもありません。飲酒や喫煙も神経症状を悪化させます。お酒はほどほどに、禁煙しましょう。

6. 神経障害の治療

高血糖が続くと神経細胞の中にブドウ糖から変化したソルビトールという物質が溜まり、神経障害の原因になるといわれています。軽症のうちはこのソルビトールの蓄積を防ぐ薬が使われます。また、痛みに対しては、通

常の鎮痛剤の他、抗けいれん薬や抗うつ薬、メキシレンという不整脈の薬が使われます。自律神経症状の治療は対症療法となりますが難しい場合がほとんどです。予防が一番ですね。 内科 柳澤

スタッフ紹介



★今年も糖尿病指導士3人が誕生しました！



管理栄養士の金居です。
楽しく続けられる食事療法を目指して、患者様と共に日々勉強して行きたいと思っております。



看護師の宮原です。
少しでも患者様のお役に立てるよう、がんばっていきたくと思っています。よろしくお願ひします。



看護師の小笠原です。
皆さんと一緒に糖尿病について、もっとたくさんのことを学び、皆さんのお手伝いができたら良いと思っています。よろしくお願ひします。

